



優秀賞



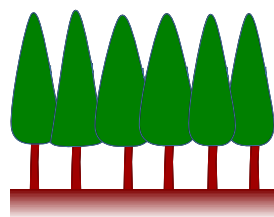
従来の人工林による鉄道林



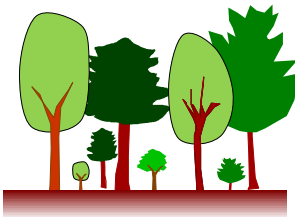
郷土樹種に転換した鉄道林（線路側）



植樹式の様子



転換



鉄道分野

保守労力低減と持続性を両立した「新しい鉄道林」への転換

取組概要

鉄道林は、吹雪、雪崩や土砂崩壊などの災害から列車を守るための林で、1893年に水沢～青森間の約40箇所に初めて設置された。それ以降、防災設備としてだけでなく、木材生産の場としてスギなどの単一樹種をこまめに保守し、売却益を維持管理に活用してきた。しかし、木材価格の低迷により管理サイクルの維持が困難になった。そこで、その土地本来の樹種を交えた多様性があり生態的に強く、保守を低減しても持続可能な「新しい鉄道林」への転換を図ってきた。

受賞理由

これまでスギなどの単一樹種で構成する人口林を、土地本来の樹種（郷土樹種）を交えた複数の樹種からなる林に転換させることにより、生物多様性を備えた生態的に強く、保守を低減しても持続可能な新しい鉄道林への転換図っていく取り組みについて評価された。

取組のポイント

鉄道林は、1893年に水沢（現・東北本線）～青森（現・青い森鉄道）間に設置されて以降、吹雪、雪崩や土砂崩壊などの災害から列車を守ってきた。現在、JR東日本には約3,900haの鉄道林がある。

鉄道林を、スギ等の単一樹種からなる人工林から、その土地本来の樹種（郷土樹種）を複数交えた自然に近い林に転換することで、生物多様性を備えた生態的に強く、保守を低減しても持続可能な「新しい鉄道林」を形成することができる。

「新しい鉄道林」への転換は、皆伐後に郷土樹種を植栽する方法と、近年では強い間伐を繰り返すことで林内に郷土樹種を自然に誘導する方法を取り入れ、両者を併用している。

「新しい鉄道林」に苗木を植える植樹式を、地元の小学生や保護者、地元関係者を招き、2008年から毎年（2011年と2020年を除く）実施してきた。

受賞者について



受賞者

東日本旅客鉄道株式会社 鈴木 博人／島村 誠／増井 洋介／梶谷 宜弘／鬼頭 和也
青葉緑化工業株式会社 大内 真／佐藤 拓也

コメント

この度は、名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。鉄道林は、1983年に初めて設置されて以降、100年以上にわたって、吹雪、雪崩や土砂崩壊などの災害から列車を守ってきました。これからも、鉄道林を健全な状態で維持することで、鉄道の安全・安定輸送に貢献していきます。

団体概要

東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）は、東日本エリアで約7千kmに及び鉄道事業を営む世界最大級の旅客鉄道会社です。

青葉緑化工業株式会社は、JR東日本をはじめとする鉄道会社の鉄道林を保守管理する専門会社です。

問い合わせ先

東日本旅客鉄道株式会社
本社 鉄道事業本部 設備部 鉄道防災G
主席 鬼頭 和也
03-5334-1244 k-kitou@jreast.co.jp